

連載企画—音の博物館—

音かおりの里*

伊藤 洋一 (音響教育調査研究委員会/日本大学)**

「彩の国・音かおりの里」は、音・香り環境を考えることのできる公園として、1997年に埼玉県を流れる荒川の支流である鴨川のそばに、「鴨川みずべの里」と共に作られました。広さは約3,000m²あります。音や香りに親しむことにより、身の回りで発生する騒音や悪臭についてもう一度考えてみようという目的で作られた施設で、季節の自然の音とかおりを拾い集めることをテーマとしています。「ささやきの壁」「音具」「かおり音の家」「足音のみち」「音の架け橋」「聞き耳の椅子」「かおりの花広場」など、普段気づかない音や香りが楽しめる様々な仕掛けが施されています。

それでは、公園の中を少し散歩してみましょう。入口を通り抜けてしばらく歩くと、広い原っぱに出ます。「かおりの花広場」です。四季の花や葉・果実の香りが漂ってきます。みんなが集まる広場です。広場のすぐ近くには屋根付きで吹き抜けの「かおりの音(ね)の家」があります。木の筒でできた風の木霊(こだま)や風の産声などの音具が風のささやきと共に優しい音を奏でます。雨の日には屋根にあたる雨粒の音がすてきな演奏をしてくれます。少し奥に進むと右手に「ささやきの壁」が見えてきます。半径4mの円弧で長さ8mの小さい壁と、半径30mで長さが50mの大きい壁の2種類です。大きい壁の表面は、平らで滑らかですが、小さい壁には表面を粗くしたところや凹状になったところもあり、違いを試すことができます。壁の端には椅子が取り付けられていて、そこに座り壁に向かってささやくと遠くに離れているのにすぐ近くで話しているみたいに実によく聞こえます。また、長い壁の円弧の中心が「原っぱ」の中にあり、足形をかたどった石の上に立ち壁に向かって手をたたくと、その反射音がとてもよく聞こえます。中国天壇公園の回音壁やオーストラリアの



小さい方の「ささやきの壁」

バロッサ貯水池ダムの Whispering Wall に行ってみるのももちろんですが、こんな身近なところでも素晴らしい体験ができますよ。

公園を更に奥に進んでみましょう。左に大きくカーブした円弧状に長く続く「足音のみち」を歩いてみます。木の板や金属の板でできていてしかも地面から浮いているので、足音がとても響きます。普段あまり気がつかない足音も道や床の様子で様々かわるのが体験できます。道の途中には「聞き耳の椅子」が置かれています。回転式で木製のリクライニング椅子は頭の部分を取り囲むように金属製の集音板が取り付けられており、遠くの音や近くを流れる小川の堰の音、竹の葉のささやき、水辺で遊ぶ鳥たちのさえずる音などがとてもよく聞こえます。安らぎのひとつです。更に進むと「音の架け橋」が待ちかまえています。竹林の中であって竹のざわめきや葉ずれの音を楽しめる高さ約2mの回廊です。橋の途中に設けられた三つの小さな屋根には、8匹のアンクルン、竹のリズム、ツイン・ドラムスの3種類の竹製音具があり、心地よい竹音を奏でます。

残念ですが紙面の関係でこれ以上説明することができません。季節や時間によって様々な顔を見せてくれる興味深い公園です。百聞は一見一聴に如かずです！一度、是非訪れてみてはいかがでしょうか。ホームページ <http://www.sgp.or.jp/index.html>

* The park for experiencing natural sound and fragrance in Saitama.

** Youichi Ito (Technical Committee on Education in Acoustics/Nihon University, Tokyo, 101-8308)